

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石田哲夫	所 属	理学部 海洋自然科学科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	基礎ゼミ、生化学、有機化学IV、化学入門で講義・ゼミにより学部学生に活用できる基礎学力を習得させる。授業評価なども参考に講義内容と方法を改善する。卒業研究の学生と博士前期課程の学生には、学会発表や論文発表を視野に入れて研究指導・より高度の技術と知識・英語力を習得させる。学生自身に進路を主体的に考えさせ、多面的にサポートする。		0.40	基礎ゼミでは、新入生の大学生活のスタートを支援できた。生化学と有機化学IVは、異なる視点から相互を連関させて講義を工夫した。化学入門IIは、学生が高等学校で化学を勉強していないことをふまえて、毎回資料を準備し、基礎概念の習得に重点をおいた。卒研の学生は、その成果を今年6月の日本ビタミン学会で発表予定である。博士前期課程の学生3人は、それぞれ十分な成果を得、複数回学会発表した。卒研の学生は希望の本土の会社に就職が決まった。博士前期課程の学生1人が1年以上不登校となっており、苦慮している。	
研究	0.50	新しい酵素反応の発見を目指して沖縄の身近な生物の生化学的研究に取り組む。生化学関係の英文コアジャーナルに5つ以上の論文を発表する。学会発表は、ポスター・口頭発表を合わせて10以上行う。研究費を獲得するため、応募条件を満たすものには積極的に応募し、何とか一件でも獲得したい。他大学研究者との共同研究も発展させる。		0.50	英語論文2つは発表済みで、1つは投稿中(レフリーコメントを待っている)。3月までにあと2つの投稿を済ませるべく奮闘中。研究費については、科研費基盤Bに申請中。他大学・他組織研究者との共同研究は6グループと進行中。学会発表は12件行った。	
社会 貢献	0.00			0.00		
管理 運営	0.10	化学系主任、代議員、理学部や化学系内の各種委員会委員の職務を真摯に果たす。		0.10	化学系主任としての職務は真摯に果たしている。代議員、理学部の委員会委員、研究推進会議の委員などの職務も真摯に果たしている。また、化学系内の組織運営についても工夫をしてきた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		安里英治	所 属		理学部 海洋自然科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	1)「化学II」でリフレクションシート制を導入し、出席点呼の時間削減と学生の理解度の把握に勤め、教育効果の改善につなげる。 2)研究室単位で「雑誌会」を開催し、最近の研究分野の動向を学生とともに学ぶことで研究室所属学生の資質向上につとめる。 3)無機化学I、IIの受講生にASD等の複数の発達障害を持つ学生がいるため、学習支援対策として、板書や試験問題などに配慮・工夫を行う。 4)研究室所属学生(B4:1名、M1:1名、M2:1名)に対し、県内外企業等に関する情報提供を続け、就活意識を高めるとともに就職の実現を手助けする。		0.40	1)「化学II」でリフレクションシート制を導入した結果、出席点呼の時間削減と学生の理解度の把握につながった。来年度も継続する予定。 2)高良研究室と合同で「雑誌会」を開催した。それを通じて研究室所属学生に論文を読む習慣がついたと判断している。 3)発達障害の学生に対し、本人の意向に沿う形で解答用紙を別途作成するなど、特定の配慮を行なった。成績も平均的であったので、対策は効果的であったと判断する。 4)研究室所属学生3名の内、1名(M2)は県内企業に採用が決定。1名(B4)は大学院進学が決定。教員志望の1名(M1)には学内の教職セミナーに参加するよう促し、今夏の教員採用試験への準備を開始させた。 5)急逝した故堀内教授の後任として「化学II」を1クラスを担当し、無事終了した。
研究	0.30	1)佐賀大、山形大との共同研究、さらに北九州高専との共同研究を推進し、国際誌へ1報以上投稿する。 2)錯体化学会会員として、例えばポスター賞審査員等の役割を通して「錯体化学会討論会」運営に協力する。		0.30	1)共同研究1件については実験の細部が詰め切れておらず、論文投稿にはいたっていない。 2)今年の錯体化学会会が北海道開催であったため、旅費の関係から参加を見送った。それに変わり、H30年秋開催の「先端錯体化学工学研究会」の実行委員長を引き受けることになり、その準備を開始した。
社会 貢献	0.15	1)県内高校へ出向いて化学系の紹介を行うなど、化学系広報活動を通して教育研究活動に関する情報発信に務める。 2)化学同窓会事務局長として、同窓会活動が円滑に遂行できるよう積極的に関わっていく。		0.15	1)2月現在、予定されている高校訪問はないが、高校側からの依頼があれば、速やかに対応したい。 2)化学同窓会事務局長として、同窓会活動(総会・同窓会式典の開催、会誌発行)の中心として活動した。
管理 運営	0.15	1)理学部委員として「予算委員」等、各委員の職責を全うする。 2)化学系委員として「教務委員会」「評価将来計画委員会」「予算委員会」の委員職責を全うする。 3)特に4年次指導教員として教務関係を担当し、卒研配属者の卒業条件クリアに向け、きめ細かな指導に努める。		0.15	1)理学部委員として「予算委員」等、各委員の職責を全うした。 2)化学系委員として「教務委員会」「評価将来計画委員会」「予算委員会」の委員職責を全うした。特に急逝した故堀内教授の後任として「教務委員会:委員長」を引き継ぎ、その重責を果たした。 3)4年次指導教員として教務関係を担当し、卒研配属者の卒業条件クリアに尽力した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		漢那 洋子	所 属		理学部 海洋自然科学科 化学系	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	● 共通教育等科目「化学Ⅰ」、専門科目「基礎ゼミⅠ」「物理化学Ⅳ」「物理化学実験」「アドバンス物理化学」「科学方法論」、および大学院科目「分子光化学特論」を従来通り、担当する。			0.26	● 共通教育等科目「化学Ⅰ」、専門科目「基礎ゼミⅠ」「物理化学Ⅳ」「物理化学実験」「アドバンス物理化学」「科学方法論」、および大学院科目「分子光化学特論」を担当した。特に、「アドバンス物理化学」と「分子光化学特論」では、適宜、演示実験をまじえて講義した。● 集中講義「物理化学特別講義A」の世話人として、他大学の教員を招聘して講義をアレンジ、また、講義の中で一部、演示実験を招聘教授と共に実施した。● 専門必修科目「物理化学Ⅱ」の来年度からの担当に向けて準備・段取りを始めた。● 来年度から分担・担当する理学部(化学系)提供の教職関連科目「理科教育法」および「教職実践演習」について、共同担当の非常勤講師や専任教員との連絡・話し合い等を行い、担当する準備を始めた。		
研究	0.40	● 光化学を題材にした科学教育の研究について論文を執筆する。● イオン液体を用いた溶媒系における光化学研究の成果について論文を執筆する。● たんぱく質と結合した分子の光反応について、研究を進める。● 国際沖縄研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」に関連したテーマに取り組む。● 光化学、および科学(化学)教育に関する、新しい研究テーマを開拓する。			0.20	● ヘテロ環を含む分子内水素結合系オレフィン分子の励起状態における水素原子移動反応の研究について論文を執筆した(投稿中)。● 光化学を題材にした科学教育の研究、およびイオン液体を用いた溶媒系における光化学研究について、これまでの成果をどのように公表するか(原稿の作成し直し・再投稿先などを含めて)検討中。● たんぱく質中における分子の光反応の研究について、今後どのように進めるか検討した。● 国際沖縄研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」に関連したテーマに取り組んだ。● 光化学、および科学(化学)教育に関する、新しい研究テーマの開拓に努めた。		
社会 貢献	0.20	● 本学の「教員免許状更新講習」において、選択領域科目として、1講座を提供する。● 公益社団法人日本化学会の代表正会員を務める。● 本学の公開講座において1講座を提供する(個人)。● 化学系教員数名の共同で提供する公開講座に講師の一人として参加する。● 共通教育科目「化学Ⅰ」および専門科目「物理化学Ⅳ」を公開授業として提供する。● 第8期北谷町男女共同参画会議委員(副委員長)を務める。			0.27	● 「教員免許状更新講習」の選択領域科目『光と物質一色と化学変化一』を開講した。● 公益社団法人日本化学会の代表正会員として会員増強や広報活動等に努めた。● 公開講座「化学への招待」の担当者の1人として、『光化学の世界～光と色と化学変化～』というタイトルで演示実験を含む講演を実施した。● 沖縄県内の高校生2名をインターンシップ生として研究室に受け入れ指導した。● 沖縄県立那覇高等学校の創立記念文化講演会(城岳講座)にて、「学ぶ喜び・人生の充足～科学の醍醐味～」というタイトルで高校生向けに講演(演示実験を含む)を行った。● 沖縄県高等学校化学教育研究会 研修会(教育講演会)において『光と色と化学変化一「光化学」を題材にした科学教育一』というタイトルで化学の先生方向けに演示実験と講演を実施した。● 第40回沖縄青少年科学作品展の審査員を依頼され、審査と講評作成等を行なった。また、審査員として地元紙の取材を受け科学普及に努めた。● 第8期北谷町男女共同参画会議委員(副委員長)を務め、審議や関連する催し物等に参加した。● 公開講座「理系女子・理系男子の世界～進路選択支援とキャリア形成～」を提供した。(受講者なし)● 担当講義のうち、「化学Ⅰ」および「物理化学Ⅳ」を公開授業として提供した。(受講者なし)。		
管理 運営	0.10	【全学】● 全学学士教育プログラム委員(化学系代表)を務める。【理学部】● 理学部教育委員会委員を務める。【化学系】● 化学系教務委員を務める。● 化学系施設・安衛法対策委員を務める。● その他の学内委員を務める。			0.27	【全学】● 全学学士教育プログラム委員(化学系委員)としてプログラム内(化学系内)の意見聴取・取りまとめや関連書類等の作成を行った。● 教員養成運営協議会委員(理学部選出)として全学的な審議に出席すると共に、教育職員免許法の改訂と学内の動きに対応した理学部内の教員免許取得希望学生の指導体制の整備に着手した。【理学部】● 理学部教育委員会委員(化学系選出)を務め、理学部内の教育に関する議論に参加し書類作成等の仕事を行った。【化学系】● 教務委員を務めた。● 教職課程の担当として、その教務、特に再課程認定に必要な書類作成や、理科教育法など教職教科に関する各種調整を行った。● 施設・安衛法対策委員を務めた。● 今年度の系内のアスベスト実験台の撤去に伴い、更新される新実験台の技術審査委員を務めた。● その他の学内委員を務めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		池田 謙		所 属		理学部 海洋自然科学科 生物系		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.35	分かりやすい学部専門講義、受講者自らが考え議論する大学院専門講義を行う。日常的な実験、ゼミにおける論文講読を通じ、学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導を行う。また、学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを行う。				0.35	学部専門講義については、学生からの質問・感想等から概ね目標を達成したと判断できた。大学院専門講義では、参加者の活発な議論を引き出し、実りある内容とすることができた。学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導では、議論を日常的に重ね、学術的に評価し得る内容の研究を遂行させることができた。また、学部4年生、大学院生、ポスドクについて、国内学会への参加を奨励し、成果発表の機会を設けた。さらに、JSPS助成のインターンシップ学生を米国より1名受け入れ、研究指導をした。また、修士の学生1名の日本学術振興会特別研究員(DC)の申請を、ポスドク1名の専門学校講師への応募をサポートし、それぞれ採択、就職が実現した。				
研究	0.30	科学研究費補助金の助成対象となった研究課題を遂行する。				0.30	科学研究費補助金の助成対象となった研究課題(3件)および担当研究者であるORCHIDSプロジェクトを遂行し、成果を国内学会にて発表した。また、新潟大学、新潟市市民講座、日本心理学会ワークショップ、脳・認知・情動の国際シンポジウムにて招待講演を行った。また、さらに、研究成果を2本の論文として国際誌に英文専門雑誌にそれぞれ発表した。また、国際誌の査読者を数多く担当した。				
社会 貢献	0.05	教員免許更新講習に向けて準備をする。				0.05	教員免許更新講習に向けて準備を行った。				
管理 運営	0.30	生物系主任、海洋自然科学科学科長として、生物系と海洋自然科学科の管理運営に関する事柄に従事する。また、大学院教育プログラム委員として大学院教育に関する諸事に関わる。				0.30	生物系主任、海洋自然科学科学科長として、生物系と海洋自然科学科の管理運営に従事し、教育研究の円滑な遂行に努めた。また、海洋自然科学専攻長、大学院教育プログラム委員としてとして、大学院の管理運営に従事し、教育研究の遂行に努めた。さらに、科研費アドバイザーに就任した。また、国際交流として、済州大学との冬期学生交流プログラムに、受け入れ側として遂行に関わった。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		竹村明洋	所 属		理学部海洋自然科学科	職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.30	共通教育科目(生命の科学など)及び学部専門科目(比較内分泌学など)を担当する。大学院科目(比較内分泌学特論など)を担当する。上記講義では、講義ごとに設定したメールアドレス等を用いて学生の意見・感想を取り上げる工夫を凝らす。研究室所属の学部学生の卒論指導を行い、研究成果の学会発表を奨励する。大学院博士前・後期の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿して論文採択を目指す。研究室に所属している大学院生全員が国際もしくは国内学会での発表を少なくとも一回行うようにする。		0.30	共通教育・学部科目として「生命の科学」、「比較内分泌学」、「基礎ゼミ」、「海洋生物生産学実習」などを、大学院講義として「比較内分泌学特論」、「Advanced Comparative Endocrinology」、「Reproductive Physiology」などを担当した。済州大学との学生交流の取りまとめ等を行った。大学院学生の研究成果を国際学術誌(3本)に投稿した。学生が筆頭発表者である口頭発表もしくはポスター発表は12回(うち、国際学会は7回)であった。年度目標はほぼ達成したと判断する。				
研究	0.30	現在獲得している外部資金による研究を計画通り進め、サンゴ礁魚類の環境利用特性の一端を明らかにする。韓国やベトナムの研究者との国際共同研究を実施し、海洋環境に適応した魚の活動リズムを沖縄と比較する。一連の研究に関する研究論文の採択を目指す。重複申請が可能な科研費に応募して採択を目指す。		0.30	外部資金として科研費(基盤研究B;海外学術調査)、平和中島(アジア地域重点学術研究)を獲得した。また沖縄科学イノベーション共同研究促進補助金を獲得した。民間との共同(受託)研究を2件推進した。本年度の外部資金の獲得は、直接経費で約1500万円であった。韓国やベトナムを訪問して共同研究を行った。基盤研究B(一般研究)に応募した。年度当初目標を超えて達成したと判断する。				
社会 貢献	0.20	県内外の中学・高校の総合学習や教員免許講習講座に協力する。NPOや学会等の企画する実習や講演会に積極的に参画し、サンゴ礁生物環境の一般理解を深める。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。		0.20	中高生を対象にひらめきときめきサイエンスを開催した。時間生物学会評議員や動物学会支部委員としての活動を行った。昨年度から引き続き、複数の国際誌の編集に携わるとともに多数の雑誌の査読を行った。年度目標はほぼ達成したと判断する。				
管理 運営	0.20	亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として本学の学際的な研究プログラムを推進する。また、副学部長(研究担当)として、理学部の管理運営に積極的に参加する。本年度から始まる概算要求の代表者として、プロジェクトが円滑に進むようにする		0.20	亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として機構の管理運営を行った。研究推進会議企画員として本学の研究獲得向上に向けたいくつかの施策を実施した。副学部長(研究担当)や理学部の各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加した。年度目標は達成したと判断する。				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		立原一憲	所 属	理学部 海洋自然科学科	職 名	准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	講義の理解度を把握するため、毎回チェック用紙を配布し、次の講義で補足説明する。実習では、大学外の機関と連携し、実習内容が社会でどのように活用されているかを体感させる。大学院教育に関しては、各自の研究目標を明確に設定し、論文発表を促す。毎週1回研究室ミーティングを行い、学業の進捗状況を報告させる。卒業、修了予定者の進路に関して、具体的なアドバイスを行うとともに、必要に応じて推薦状を作成する。		0.30	生物学概論では、毎回、質問カードに講義内容への質問を記入させ、次の講義時に回答した。海洋生物生産学実習Ⅱでは、沖縄県栽培漁業センターを見学し、実習の内容が社会でどのように応用されているのかを学ばせた。大学院在籍者には、学会参加を前提とした研究計画を立てさせ、各自の目標に沿って研究を進めさせた。毎週月曜日に研究室所属の全学生に進捗状況を報告させ、次週の計画を相談した。卒業予定者の就職相談を受け、必要に応じて推薦状を作成した。今年は修了予定の4名のうち2名が公務員、2名が民間企業に合格した。全員、大学の専門を背景とした職種である。		
研究	0.30	今年度は、5報の論文の印刷もしくは受理を目標とする。国際学会、国内学会あわせて6回の学会発表を行う。現在進めている琉球列島産魚類の生活史の研究に研鑽する。各種学会の役員を引き受け、依頼された論文の査読を積極的に行う。受託研究費の獲得に努める。		0.30	今年度は、査読付き論文を3報印刷、2報受理させた(計画の100%)。国際学会2、国内学会14の口頭(ポスター)発表(計画の267%)を行った。うち2件が魚類学会口頭発表章を受賞した。魚類学会などの評議員を務めた。また、科研基盤C、科研基盤Bなどを獲得した。		
社会貢献	0.30	外部の委員を積極的に引き受け、各種委員会への出席や民間企業へのアドバイスは、少なくとも各月4回程度、年間52回程度を目標とする。沖縄の自然保護や環境教育に関する啓発活動を行う。		0.30	県や国の委員と沖縄県内外の企業の相談を積極的に行った。今年度は、内水面漁場管理委員会西日本ブロック会議の主催や宮古島市史誌編纂が重なり、3月2日現在、各種会議と相談回数は79回に及んでいる(計画の152%)。辺士名高校の特設授業を行い、奄美大島と羽地ダムで小学生対象の自然説明会を実施した。		
管理運営	0.10	担当する学内、系内の委員をこなす。大学院学務として9月と3月に滞りなく修了生を送り出せるよう努める。		0.10	大学院学務として、9月と3月の博士前期、博士後期の学生の修了をサポートした。3年次指導教員として指導を行い、大学院学務の雑用を行った。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		James Davis REIMER	所 属		理学部 海洋自然科学科生物系	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	共通教育科目(生物学実験など)及び学部専門科目(サンゴ礁多様性保全学)を担当する。大学院科目(English Manuscript Preparation、Advanced Invertebrate Biologyなど)を担当する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す。大学院WG世話人として、大学院生について指導や相談を行って、無事に卒業できるように支援する。			0.35	無事に共通教育科目も専門科目も担当した。大学院科目も担当した。大学院学生の指導して、国際・国内学会や論文などの活動の指導をしました。沖縄産のスナギンチャク新種の論文も受理された、大学院生が参加している論文が8件が受理された。		
研究	0.40	現在投稿中・準備中の論文5件について受理を目指す。沖縄や太平洋におけるスナギンチャク類の調査や遺伝的変異について研究を進める。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に行い、研究論文の採択を目指す。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。SATREPSのパラオprojectの研究を進める。			0.40	今年度、論文18件が受理されました。日本産のスナギンチャク類の論文も受理された。論文の中に、大学院性が参加している論文が8件である。研究室の合計で、学会発表24件を行って、学生発表賞2件になった。Reviewerや国際学術雑誌Section EditorやAssociate Editorとして、60論文以上reviewとeditorとして担当した。SATREPS(パラオ)の研究や頭脳循環もスムーズに推進した。		
社会 貢献	0.05	パラオで行うSATREPS Projectでは、outreach活動やcapacity buildingを行う。			0.05	パラオで行うSATREPS Projectでは、パラオ短期大学の大学生と研究や指導を行って、人材育成行った。前期に、高公の教員免許授業も行った。2月に、香港大学の野外実習の担当を行った。		
管理 運営	0.20	大学院学務WG(世話人として)やOIMAP委員会で構成員として参加する。大学院WGでは、4月・10月の留学生orientationや、卒業発表会の広報や準備を行う。OIMAP委員会では、琉球大学の国際化を進むように活動する。			0.20	大学院学務WGとOIMAP委員会に参加した。大学院WGの世話係で、全体の管理、そして学生便覧や時間割、卒業発表のtitleなどの英文版のチェックも行った。4月・10月の大学院生のorientationも行った。8月の大学院卒業発表(最終試験)の担当もしています。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		横田昌嗣	所 属		理学部 海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学部の植物形態解剖学, 生物学野外実習, 進化生態学実習, 基礎ゼミ, 博士前期課程の講義を行うほか, 卒論, 博士前期課程の学生の研究指導を行い, 短期留学プログラムの受講者を対象とした英語科目の講義を担当する。1年次指導教員として, 生物系1年次学生の修学指導にあたる。			0.30	当初の目的は達成した。その他, 琉大特色科目の「琉球の自然保護」の世話人と講義を担当し, 公開授業として一般市民にも公開した。		
研究	0.30	現在執筆中のラン科に関する著書の原稿を完成させる。編集と執筆を担当している沖縄県の野生生物に関する啓蒙書(沖縄生物学会発行), 沖縄県版レッドデータブックの原稿作成と編集作業を進める。琉球列島の野生植物の分類に関する原著論文を執筆し, 作成できたものから順次投稿する。沖縄県で開催された日本植物学会でのシンポジウムの成果を出版物としてまとめて, 公表する。			0.30	沖縄県版レッドデータブックと宮古島市史(自然編)については, 年度内の発行を予定しているが, たの著書については原稿は準備しているものの, 発行には至らなかった。学術論文については, 準備中の原稿は幾つか作成したものの, 年度内に論文を出版することができなかった。その他については, 現在も作業中である。当初の目的は十分には達成できなかった。		
社会 貢献	0.15	沖縄県文化財保護審議会委員(沖縄県), 環境省野生生物課などの検討会委員として専門家の立場として絶滅危惧種の保全, 自然環境や文化財の保護と活用, 世界自然遺産指定のための推薦書等の作成について意見を述べる。			0.15	環境省および沖縄県の絶滅危惧種, 世界自然遺産, 国内希少種, 侵略的外来種に関連する多数の委員会に出席して, 意見を述べた。特に世界自然遺産については, 科学委員会の委員として, 推薦書(本文275ページ, 付属資料1219ページ)の作成に関わった。宮古島市史編集委員として, 市史の編集と原稿執筆に関わった。「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会に参加し, 公開シンポジウムの開催に協力した。年度内に那覇市, 竹富町で一般市民を対象とした講演を2回担当した。当初の目的は達成した。		
管理 運営	0.15	生物系内および理学部内の各種委員を務めるほか, 琉球大学キャンパス内の自然を活用した施設整備と教育プログラムの作成のため努力する。			0.15	キャンパス内の施設整備については助言したが, 教育プログラムについては活動をすることができなかった。その他については, 当初の目的は達成した。		
進路 指導	0.10	研究室に所属する学部学生, 博士前期課程の学生, 生物系1年次学生の進路について助言を行う。			0.10	博士前期課程と卒論生については, 論文作成の指導を行った。卒論生2名については進路指導も行い, いずれも卒業後の進路が決定した。当初の目的はほぼ達成した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	伊澤 雅子		所 属	理学部海洋自然科学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	博物館学芸員コースの順調な運営を行うことを目指す。共通教育、専門科目、大学院科目において例年同様の科目を担当する。博士後期課程1名、前期課程学生5名、および学位取得をめざす留学生の研究指導を行う。TA、RAの制度も活用して大学院生の指導に取り入れる。4年次5名について卒業研究の指導を行う。「生物塾」プログラムを実施する。また、学振特別研究員PDを受け入れ、研究指導を行う。本年度は、台湾の中国文化大学との国際サマーコース(学部生対象)を台湾で実施する。また、沖縄で実施するJoint Summer Courseにおいて指導を行う。	0.30	博物館学芸員コースの運営は順調であり本年度も20名が学芸員資格単位を取得した。共通教育、専門科目、大学院科目において予定通りの科目を実施した。博士後期課程1名、前期課程学生5名、および学位取得をめざす留学生、4年次4名、3年次5名の研究指導を行い、前期課程学生3名が修士論文を、4年次4名が卒業論文を完成予定である。TA、RAの制度も活用して大学院生の指導に取り入れた。「生物塾」プログラムは例年通り実施した。また、学振特別研究員PDを受け入れ、研究指導を行った。本年度は、台湾の中国文化大学との国際サマーコース(学部生対象)を台湾で実施した。また、沖縄で実施したInternational Joint Summer Courseにおいて指導を一部担当した。	
研究	0.35	ヤマネコ類、大東諸島の生態系、哺乳類と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進める。イリオモテヤマネコの研究については一部環境省及び林野庁からの受託研究として、また三井物産からの研究助成によって行う。大東諸島の研究は日本自然保護協会からの研究助成によって実施する。哺乳類と植物との関係については科学研究費によって、タイ、台湾において海外調査を実施する。国際的には台湾およびタイの研究者との共同研究を進める。その他琉球列島の固有種であるヤンバルクイナやケナガネズミの生態についての調査を並行して行う。現在投稿中の3編、投稿準備中の3編の論文について受理をめざす。IMC12、IBCの2つの国際会議と、沖縄生物学会、日本哺乳類学会での学会講演を行う。日本哺乳類学会理事、奨励賞選考委員、沖縄生物学会幹事として学会の運営にあたる。	0.35	ヤマネコ類、大東諸島の生態系、哺乳類と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進めた(イリオモテヤマネコの研究については一部環境省及び林野庁からの受託研究、三井物産からの研究助成、哺乳類と植物の関係については科研費、大東諸島の研究は日本自然保護協会からの研究助成)。哺乳類と植物との関係については、タイ、台湾、香港において現地カウンターパートと協力して海外調査を実施した。その他琉球列島の固有種態についての調査を動物園、行政機関およびNPOと協力して行った。6編の学術論文を発表した。また、3編の論文が投稿中、1編の書籍(分担執筆)が印刷に向けて進行中である。IMC12(国際哺乳類会議)と、沖縄生物学会、日本哺乳類学会において学会講演を行った。日本哺乳類学会理事、同学会賞選考委員、沖縄生物学会幹事として学会の運営にあたった。	
社会 貢献	0.20	環境省、林野庁、沖縄県、竹富町等の各種委員会に出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べる。大東諸島、西表・対馬の希少種について研究成果に基づき保護に関する提言を行う。IUCNネコ科専門委員として海外に情報を発信する。イリオモテヤマネコについての一般向けのシンポジウムで講演する。	0.20	環境省、林野庁、沖縄県、竹富町等の各種委員会に出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べた。大東諸島、西表・対馬の希少種について研究成果に基づき保護に関する提言を行った。IUCNネコ科専門委員として海外に情報を発信するとともに、世界自然遺産に向けてのIUCNの視察に同行し解説を行った。イリオモテヤマネコについての一般向けのシンポジウムで講演を行い、ヤマネコ関連のイベントにおいて、一般向け、子ども向けの解説を行った。	
管理 運営	0.15	学長諮問人事委員会委員として委員会および関連会議に出席し、人事に関する案件の議論を行う。系の中では学務係としての業務を行う。	0.15	学長諮問人事委員会委員として委員会および関連会議に出席し、人事に関する案件の議論を行う。系の中では学務係としての業務を行った。また、次年度の運営に関わる業務の準備を始めた。	
計	1.00		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		久保田康裕	所 属	理学部	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	院生・学生のために必要な学会発表、論文執筆を指導・支援する。大学院および学部担当科目を担当し、群集生態学や生物統計学に関する基礎知識の講義・演習などを行い、研究を行なう上での知的基盤の構築に貢献する。		0.40	講座の学生・院生の研究を指導した。大学院および学部担当科目を担当し、生態学や生物統計学に関する基礎知識の講義・演習などを行い、院生・学生の教育を行った。また、新規に採択されたJSPSの頭脳循環プロジェクトにおける海外派遣研究員の指導を行い、イギリス、ポーランド、フィンランドなどへの若手研究者派遣を支援した。	
研究	0.40	研究論文の投稿・採択を目指す。学術雑誌の編集・査読をとおり、関連学術分野の発展に貢献する。また、大型研究資金の獲得を目指す。		0.40	複数の論文を国際雑誌に掲載させた。競争的資金(科研費)を3件(基盤A・基盤B・挑戦的萌芽)採択させ、さらに、JSPSの頭脳循環プロジェクトおよび環境省の環境研究総合推進費を新規に採択させ、新たな研究プロジェクトを立ち上げた。	
社会 貢献	0.10	沖縄県や環境省の事業(奄美・琉球の世界自然遺産登録)や環境行政に関連した検討委員として、その進展に貢献する。		0.05	琉球諸島の世界自然遺産登録に関する検討委員(環境省および沖縄県)を務め、地域の自然環境保全政策に貢献した。	
管理 運営	0.25	所属部局における学務(教育委員会やその他委員会の活動など)を通して、大学の管理運営に貢献する。		0.15	熟生圏の併任教員として、付属研究室の教育・研究に貢献した。また、グローバル教育支援機構アドミッション委員として、地元高校に対する説明を行うなど、学部学科の学務に貢献した。さらに、イギリス・王立キュー植物園との国際交流事業を推進し、今後のMOU締結の準備を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中村 崇	所 属		理学部 海洋自然学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.45	担当講義科目全般における内容充実を図る。担当実習を、瀬底実験施設で実施し、生物生産学実習VIIIと連携しつつサンゴ礁生態系について学生が体験的・体系的に理解できるよう目指す。留学生向け講義(Introduction to Oceanography、短期プログラム、APIセミナー等)を担当する。また、「総合環境学概論」を担当し、副専攻カリキュラムへの貢献を目指す。3名の卒研究生についての研究・進路指導および、3名の修士学生についての研究指導を担当する。		0.45	講義・実習担当科目では、前期の瀬底実験施設での実習から、後期専門講義にかけてサンゴ礁生態系を体系的かつ体験的に理解できるような実施ができたと考える。本年度は留学生向け講義の受講者が少なかったが、次年度は登録期間をぎりぎりまで伸ばすことで増員できるように対応する。今年度は3名の卒論生、2名の修論生の学位取得を終えることができた。
研究	0.35	浅海および中深度域でのサンゴ群集・生物学に関する研究を進める(科研A分担)。また、2012年度からの、石西礁湖での個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリングを継続する(環境省)。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、サンゴ礁島嶼生態系の自然・社会科学双方からのパラオにおける研究の取りまとめを進める。成果については順次論文化および学会等での発表を目指す。		0.35	サンゴ礁生物を対象とした研究を展開した。野外潜水調査をおこない、石西礁湖(科研B分担、環境省/東京久栄)および沖縄島周辺(科研A分担、沖縄環境科学センター受託)でのサンゴ群集調査の他、主にサンゴ白化に関する研究を実施した。その他、学内ではORCHIDSサンゴ礁生物分野を担当した。また国外では、SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、パラオにおけるサンゴ群集モニタリングを中心とした研究を進めつつ、最終年度のJCC会議・シンポジウム・地元説明会等を現地で実施し、併せてプロジェクトの終了時評価対応をおこなった。成果については学会発表・論文化を進めた。
社会 貢献	0.10	日本サンゴ礁学会評議員、沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わる。一般向けには、国内での公開講座・講演会・レクチャー・セミナー開催およびパラオ国でのシンポジウム・ワークショップ開催に積極的に関わり、本学の研究成果についての社会還元・啓蒙促進につとめる。		0.10	日本サンゴ礁学会評議員・沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わった。一般向けには、上記パラオ国での活動のほか、TaraPacificワークショップ参加、環境省の環境省白化緊急対策会議、慶良間での一般向け講演会などに参加しつつ、子供向け新聞フラビー記事作成、地元TV局取材の受け入れなどをおこなった。また、県港湾課および揚水発電所跡地利用などについてのヒアリングに加え、環境省とパラオ国サンゴ礁センターとの協定覚書締結への助言等をおこなった。
管理 運営	0.10	学部学務WGメンバーとして学業環境の充実を図る。学部の教職養成運営委員・特別プログラム運営委員として、教員養成・国際交流推進につとめる。また、自己評価委員として認証評価に関する情報取りまとめ等にかかわる。		0.10	生物系学務WGにメンバーとして学部学務の実施に関わった。また、前半には教職運営委員として介護等実習や事前学習等を支援した。その他、自己評価委員、FD委員長、教育委員、特別プログラム運営委員などを務めた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		栗原晴子	所 属		理学部 海洋自然学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.33	生物海洋学、海洋生態学の基礎的知識の学習、理解、さらに学習意欲を促す授業の実施する。目的意識をしっかりと持ち、自律性、積極性および国際的意識を持つ学生の教育。4年次指導担当として、生物系の学生の指導全般を行う。研究室の円滑な運営し、学部学生／博士前期課程の学生の研究指導を実施する。大学院学務担当として、大学院博士前期／後期課程の学生支援を実施。			0.35	4年次指導の担当をし、学生の指導、卒論発表会の主催、成績管理、就職指導など指導全般を実施した。大学院学務として大学院博士前期／後期課程の学生支援、発表会の運営管理、指導全般を実施した。海洋環境学、基礎ゼミ、海洋環境科学特論、Introduction to Oceanography, Subtropical Biology in the Ryukyus, 生物学ゼミナールI, II, 生物学実験、進化生態学実習、沖縄のサンゴ礁、熱帯生物学概論の講義を実施した。また研究室所属の学部、修士学生の研究指導を実施した。		
研究	0.40	国内／国際共同研究の実施すると共に、国際／国内学会での研究成果発表し、国際雑誌／国内雑誌へ論文を投稿する。その他シンポジウムの開催などを積極的に実施する。			0.38	国際の科学雑誌に7本の論文を投稿し受理された。地球惑星学会で2つのテーマセッションを、また国際シンポジウムを2件主催した。また2件の国際シンポジウムに招聘され、国内、国際学会で成果発表を行った。外部資金は昨年度に引き続き、科研基盤B国内(代表)、基盤B国際(代表)CREST(分担)、JST-JICA(パラオ分担) 科研基盤A(分担)2件、SCOR (Working group 149)に関する国内外での共同研究を実施した。		
社会 貢献	0.17	環境教育の普及活動の実施。ホームページやメディア等により、研究成果を社会へ情報発信する。学外審議会、学会関連の各種委員会としての責務のを果たすと共に、環境保全や教育普及等の社会貢献活動を実施する。			0.18	サンゴ礁学会、教育普及委員会を立ち上げ委員長を務めた。またサンゴ礁学会評議員、サンゴ礁学会広報委員、海洋学会環境賞選考委員、海洋学会沿岸環境委員、環境省主催の国際サンゴ礁年に関連するイベント各種に参加、サイエンスカフェ、自然史連合関連イベントの主催をした。新たにHPを立ち上げ、新聞及びテレビメディアへ研究で得られた成果を広く情報発信した。		
管理 運営	0.10	大学院学務担当、その他委員会等に関わり責務の実施。その他会議への出席する。			0.09	大学院学務に関わる業務を実施した。ORCHID委員メンバーとして関連業務を実施した。その他教授会、生物系会議等へ出席した。科研費アドバイザーを務めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		広瀬 裕一	所 属		理学部 海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	<p>担当する正規の授業(学部、大学院)を従来通り提供する。学生の研究指導では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を進める。名古屋工業大学大学院の集中講義を担当する。 大学院新入生のガイダンス資料を整備するとともに、履修・学位の要件・研究倫理について指導を行う。 担当する教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行う。 国際合同野外実習の世話人として本学開催の実習運営を担当する。</p>			0.40	<p>担当する正規の授業および名古屋工業大学大学院の集中講義を予定通り実施した。ただし、博士前期課程の講義については履修希望者がなかったため開講しなかった。指導する大学院生、学部生には必要な研究指導・進路指導を行い、それぞれ進路も確定している。担当する教職科目に関連し、課程認定に向けた作業に協力している。本学で開催された国際合同野外実習の世話人を担当し、実習全体の運営を行った。</p>		
研究	0.30	<p>現在投稿中・準備中の論文について受理を目指す。科研費(代表および分担)について他大学・機関との共同研究を進める。日本動物学会九州支部委員と日本動物学会大会の理事を担当する。</p>			0.25	<p>国際誌に2報の論文を発表し、加えて2報が受理されている。また、国内誌に2報のミニレビューが掲載された。従来と比較してやや低調である。本学の研究プロジェクトORCHIDのサンゴ礁生物分野のメンバーとして研究を進めた。</p>		
社会貢献	0.15	<p>Invertebrate Biology誌、Frontiers in Marine Science誌のeditorial boardを担当する。日本動物学会のZooDiversity Web について運営委員長を担当する。</p>			0.15	<p>2件の論文査読、1件の助成金審査を担当した。公益社団法人日本動物学会の理事(ZooDiversity Web担当)として、論文データベースの運営を行うとともに、サイトの将来計画を検討した。日本動物学会富山大会において、一般向けの展示「動物学ひろば」に出展した</p>		
管理運営	0.20	<p>大学院(生物系)関連の学務を担当し、新入生ガイダンス、10月/3月修了生の審査・発表会等の運営を行う。理学部将来計画員等に加え、生物系SEMの機器管理を担当する。</p>			0.20	<p>大学院(生物系)関連の学務を計画通り分担した。SEMIは不調な状況があり、間に合わせの対応を行なっている。</p>		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中淳一	所 属	理学部 海洋自然科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	専門科目(海洋有機化学、同実験、有機化学 II)、共通科目(化学入門 I, II, Subtropical Biology in the Ryukyus)、ならびに卒業研究や特別研究、セミナーや特別演習、基礎ゼミ等で学部生・大学院生の教育を行う。それぞれの授業内容については、昨年度のものに新しい情報を取り込み改善を図る一方、新規のものは新たに講義内容を作成する。卒研学生、修了予定院生の進学・就職相談にのる。博士後期課程の院生および単位取得修了者には、年度内での学位の取得を目指させる。		0.40	登録受講生がいなかったSubtropical biology in the Ryukyusを除き、専門科目(海洋有機化学、同実験、有機化学 II)・共通科目(化学入門 I, II)を担当した(ている)。それぞれの科目において、講義内容、実験内容を見直すとともに、一部の授業では演示実験を加え改善を図った。大学院生の教育では、9月に2名の博士を送り出した。また、タイとオランダからインターンシップ生(博士後期、修士)各1名を受け入れた。修士1名を3月に修了させる予定であるが、4年生1名はかなり欠席していたことから、卒業かどうか不明である。	
研究	0.40	海洋天然物に関連する研究を遂行する。学内の熟生圏の教員と海洋生物多様性に関連する共同研究を行う。また、国際誌への論文投稿、ならびに国内外の学会で成果を発表する。		0.40	海洋生物由来の生理活性物質に関する研究成果を国際誌に責任著者として6報、共同研究者から1報の論文として報告した。那覇とインドネシアで行われた国際学会で、招待講演を行った。松前国際友好財団の経費を受けたジャマイカの外国人客員研究員を受け入れた。科研の基盤Cに応募した。	
社会 貢献	0.10	民間研究機関との共同研究を進展させるとともに、事業の発展に貢献する。昨年度から参加している沖縄県理科・化学教育懇談会のメンバーとして、化学会関連の活動や行事に貢献する。		0.10	関係する民間企業からの要望(特定の化合物の提供)、ならびにテレビ番組でのコメントなどで協力した。沖縄県理科・化学教育懇談会の幹事として、4月の九州支部の会合への出席、7月の化学グランプリ(化学オリンピック予選)、および11月の化学フォーラム(高大接続と入試関連の講演会)を無事に終えた。	
管理 運営	0.10	今年度は系内の留学生委員会、1年次指導教員、学部のOIMAP委員会、副学部長(国際)を担当する。1年次の指導教員として、履修指導等を行う。海外の大学との交流等、留学生ならびに本学部の学生関連の件で職責を果たす。		0.10	1年次指導教員として登録や懇談会で学生に履修指導等を行った。その中には休学希望の学生も含まれていたことから、事情を聞き、適切に対処した。学内の国際交流に関する自己点検・評価委員会、委員会委員、および学部内の自己点検評価委員会と留学生特別プログラム委員会に出席した。9月のシアクアラ大学からの訪問団にも対応した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		棚原 朗	所 属	理学部海洋自然科学科化学系	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	講義「機器分析」へ技術職員による教育支援(機器操作, メンテナンス等の現場体験に基づく講義) 「機器分析」「放射化学」: 学生の授業評価をHPで公開し, それに基づく意見等を授業へ反映 学部学生へ大学院進学を啓蒙 学部学生へ国家資格等の取得をPR及び支援		0.40	講義「機器分析」へ技術職員(2名2コマ)の教育支援をもらった。 学生からの授業評価を個人のHPで公開した。 研究室のB4学生(1名)が大学院試に合格した。 「放射化学」の受講学生(1名)が第二種放射線取扱主任者試験に合格した。	
研究	0.30	学会発表及び論文投稿 所属系以外との共同研究 受託試験のPRを積極的に行い, 外部資金の獲得をめざす。		0.30	地球化学会年会で発表した(M2学生と共著)。 論文を投稿中(Aerosol and Air Quality Research)共著 東北大学の研究支援(福島県在住小児の乳歯の放射線測定)を行った。 受託試験(放射能測定)を獲得した(2件7試料)。	
社会 貢献	0.05	沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員 福島原発事故に伴う放射能に関する外部からの相談に対応 県内高等学校へ化学系の紹介		0.05	沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員を務めた。 消防学校で「消防理化学・実験」の講義担当(6時間)した。 県高等学校化学教育研究会で化学系の説明会を実施した。	
管理 運営	0.25	化学系の管理運営に参画 RI施設の放射線取扱主任者として従事 研究基盤センターで機器の維持管理および機器講習会を開催		0.25	理学部代議員を務めた。 系内の入試方法検討委員, 施設・安衛法対策委員を務めた。 RI施設の放射線取扱主任者として従事した。 研究基盤センターの放射線測定器の維持管理, 機器講習会を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		米藏 誠哲		所 属		理学部 海洋自然科学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	・化学統計熱力学の内容・講義資料を充実させる。				0.20	・専門科目「化学統計熱力学」において遷移状態理論等の化学への応用の内容を増やした。				
研究	0.60	・これまでの研究(ブラウンラチェット、ソフトマター素子)をまとめる。 ・学外研究機関との共同研究(熱・電磁場揺らぎで駆動するソフトマターイオントロンクス素子)実施する。 ・科研費を申請する。				0.60	・ソフトマター素子(イオンスターラー、バブル熱スイッチ)については実験終了し、現在結果をまとめている。 ・学外研究機関との共同研究(ソフトマターイオントロンクス素子)を実施、金微粒子の作成に協力した内容が論文公表された。 ・科研費は申請していない。学外共同研究のテーマで来年度申請する予定。				
社会貢献	0.00					0.00					
管理運営	0.20	・化学系委員会委員・年次指導教員の仕事をする。 ・付属図書館運営委員会委員・付属図書館学術情報基盤資料選定委員会委員(理学部)の仕事をする。				0.20	・化学系委員会委員・年次指導教員の仕事をした。 ・付属図書館運営委員会委員・付属図書館学術情報基盤資料選定委員会委員(理学部)の仕事をした。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中川鉄水	所 属		理学部 海洋自然学科 化学系
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	3年次の指導教員なので、学生と密にコミュニケーションを取りながら指導する。やる気のある学生たちに英語と論文・実験等のセミナーを依頼されたので、英語ランチ、論文ランチ、実験トレーニングなどを開催していく。受け持っている授業も昨年度得た経験を活かし、改善を図っていく。研究室での学生指導もしっかり学生と対話しながら柔軟に指導し、それぞれの道にいい形で進めるように支援する。		0.30	3年次指導教員では、様々な出来事があったが関連部署等と連携し全て対応できた。英語・論文ランチセミナー、夏・春休みの1年生向け化学実験講座を行い、学生の基礎力を上げた。公開講座で学生のプレゼン・考える力を伸ばす機会を作った。更に既存の授業も常に改良し、教育は目標以上に充実したものであった。学生支援でも相談に来た学生にも誠意を以て対応し、研究指導はできたが、学生個人の抱える問題を十分に解決できなかったのは心残りである。
研究	0.30	昨年度から引き続き萌芽の研究に加え、科研費の基盤Cが分担者で採択されたため、両立させながら良い成果を出す。鉄鋼環境基金も採択されているが、2年目の継続が難しい助成金なので、2年目の継続を採択されるように努力する。2年前から何度も申請している沖縄県イノベーション構築事業を今年度こそ採択されるように全力を尽くす。結果があるがまだ出せていない論文が10報近くあるので、最低3報を投稿する。		0.35	助成金を新規2件(科研費、沖縄県事業)獲得した。鉄鋼環境基金は継続できなかったが、それ以外は順調に進めることができ、沖縄県事業は目標以上の成果を挙げた。論文は要再実験や特許案件もあったため1報であったが、来年度初めには1報出せる状況にある。特許も2報請求し、全体として目標通りだった。
社会 貢献	0.20	公開講座「水素のチカラ」と学生主導の「身近な化学」を成功させる。産業まつりに出展する他、沖縄県教育振興会と連携しつつ、講演会や出前授業を行うことで化学系を宣伝し、入学志願者増加を狙う。琉大OBによる組織龍樋硯心会の50回展を書道部顧問としてサポートし、成功させる。		0.20	公開講座「水素のチカラ」は離島と北部開催も実現し、講座後の交流会で現地の生の声を聞くことができた。「身近な化学」は毎回30人以上の子供が参加し盛況だった。依頼講演もいくつか受け、地域に水素エネルギーの重要性を認識してもらいつつあることを実感した。龍樋書道展は書道部も貢献し、成功した。
管理 運営	0.10	昨年度は大きな失敗をいくつかしたので、ミスせず組織に貢献できるように尽力する。学生支援委員をはじめ、いくつかの委員があるため、それらの委員会で積極的に行動する。特に引き継ぎマニュアルが無いものは作成し、次の委員にすぐに受け渡せるようにしておく。		0.10	大きなミスは無かったが、学生支援委員で就職セミナーの集客に課題が残った。同委員では積極的に学外セミナー参加や支援団体と連携し、情報を教員や学生に提供した。広報委員は宮古高校の学生に化学系の説明を行い貢献した。他の委員も会議に参加できないこともあったが概ね全うすることができた。
その他	0.05	11月に金属学会関連の研究会を主管として開催するため、成功させる。まだ大学の仕組みが十分に理解できていないと昨年度感じたので、セミナーや勉強会などに積極的に参加し、大学への理解を深める。また、自己研鑽も引き続き行いが、特に今年は事務処理能力の向上を図る。		0.05	11月の研究会は参加者数が過去最多となり、成功に終わった。勉強会・セミナーにいくつか参加し、大学の仕組みを勉強できたが、まだ不十分と感じる。事務処理能力は向上したと思うが、まだ仕事量に対する処理能力が追いついておらず、余裕が無くなるとミスをしていた。この点は来年度の反省点としたい。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		堀内 敬三	所 属		理学部 海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学Ⅱ」の指定学科が変更になったので内容を若干変更する。 ・「アドバンスト物理化学」の内容を変更する。 ・「セミナーⅠ・Ⅱ」の内容を整理充実させ、公開セミナーとする。 ・大学院講義「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」の内容を検討し、より分かり易い内容にする。 ・卒業研究担当学生の進路指導を行う。 		0.00				
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に学術論文(二重融解、構造相転移、常磁性体のスピンドイナミクス)を投稿する。 ・学外研究者との共同研究(亜鉛、カドミウム、水銀錯体の構造相転移と分子運動)を推進する。 		0.00				
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民、高校生を対象に公開授業(「化学Ⅱ」)を行う。 ・一般市民を対象に公開講座(「化学への招待」、「化学への招待2」)を開講する。 ・県内高校への出前講座を実施する。 ・教員免許状更新講習の講師を担当する。 		0.00				
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・化学系教務委員会の委員長を務める。 ・化学系広報委員会の委員を務める。 ・化学系2年次の指導教員を務める。 ・日韓共同理工系学部留学生事業実施委員会の委員を務める。 		0.00				
計	1.00			0.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		